



## 1 実証授業までの見通し

実証授業まで	日程	内容		
		授業	学習資料	発表
あと6回	9月14日	単元計画を固める。 ※高跳びミッションの順序性により、事前授業をいくつかのパターンに分ける。 1 単位時間の授業の流れ本決定	・ビンゴカード検討 ・リズム体操検討・実技研？	
事前授業①				
今回！！	9月26日	事前授業まとめ 主体的・協働的な学びの姿の明確化	・ビンゴカード修正 ・4年生の場づくりのための技能分析（映像） ・リズム体操検討	
事前授業②				
あと4回	10月10日の週 後半	3年生の単元計画本決定 4年生の単元計画の検討	・ビンゴカード完成 ・実証授業用資料作成分担 ・4年生の場の検討 ・リズム体操完成お披露目？	・発表原稿依頼 ・プロット案作成
あと3回	10月16日の週 後半	単元指導計画及び評価基準など、諸々の言葉の整理を行う。	・4年生の場の検討・修正 ・実証授業資料の修正	・発表原稿完成 ・実証授業資料取りまとめ ・原稿完成し次第、PPT作成開始
あと2回	10月23日の週 後半	・実証授業資料推敲、修正	・PPT修正	・実証授業資料推敲、修正
あと1回	11月2日（木）くらい？	・実証授業資料最終確認 ・印刷	・PPT最終チェック ・式次第作成	・実証授業資料最終確認 ・印刷
11月7日（火）	実証授業			

## 2 事前授業の様子について

事前授業をもとに、成果と課題をあげ、そのままいい点と改善すべき点を共通理解します。

## パターンA：河村先生

2時のはじめに「跳びやすいコツを見付けよう」と提示する。2時に「助走から止まらずに片足踏み切り」に気付かせ、3時で「ゴムに近い足を振り上げる」に気付かせていく。

## パターンB：生重先生

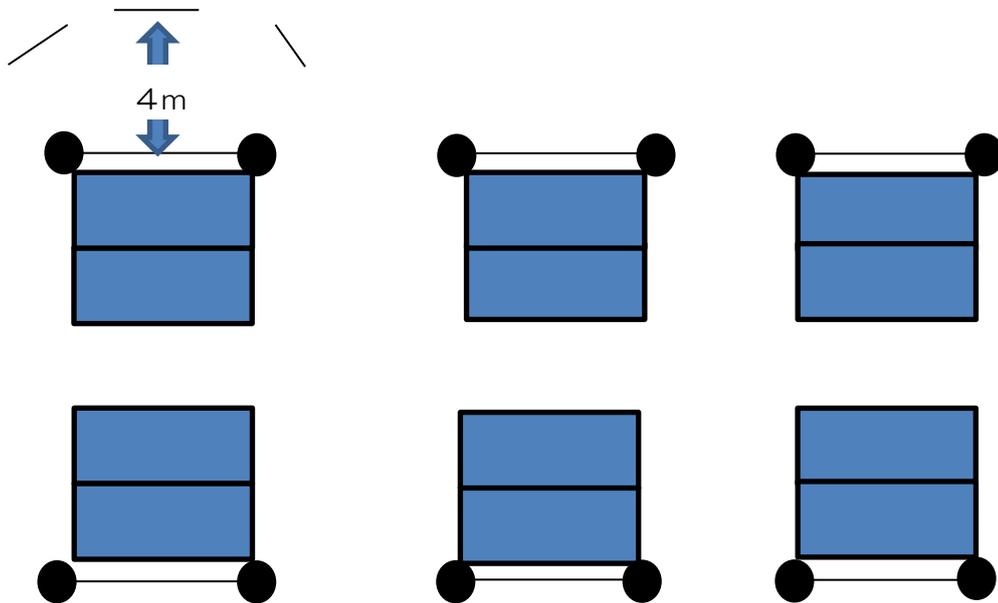
2時の終わりまでは、高跳ビンゴを十分に楽しむ。（自分で高さや方向を自分で選ぶ）2時の終わりに「これから高跳ビンゴでどんなことをしていきたいか」（もっと高く跳びたい、3つの方向から跳んでみたいなど）と、児童の願いを聞き取り、3時から「跳びやすいコツを見付けよう」と、技能に目を向かせて行く。

# 生重先生の実践

## 「高跳ビンゴ」授業レポート 1時間目

### 場の準備

鈴なし…準備忘れしました。



#### 児童の係

整列係…1人  
カード…1人  
シール…1人(1人)  
ポール…4人

#### 場の準備

ポールを準備しているの  
と同時に並行でマットを準備  
する。  
目標は、5分程度

9月20日(水) 3校時 10:45~11:35 (5分オーバー)

1. 準備運動 (吉本先生の実証授業の運動+α)
2. 8の字跳び
  - ・両足で跳んでいる人が、ちらほら。(特に何も声をかけませんでした。)
  - ・1分半でどれだけ跳べるかをやりました。(30~40回位)
3. 準備・説明  
自分の段取りが悪く。すごく時間が、かかりました。係等、事前に決めておくとよいかもしれ  
ません。
4. 高跳ビンゴ①  
安全な着地の仕方について指導をしてから、行いました。合言葉は「レッツ高跳ビンゴ!!!」  
です。
  - ・着地で前のめる子が多くいました。子供同士で、着地に気を付ける声掛けが少しありました。
5. 振り返り①  
T:「どうすればうまく着地できますか?」  
C:「空中でバランスをとる。」  
C:「両足をそろえて跳ぶ。」→T:「足の使い方についてだね。」と返す。  
C:「膝を曲げて着地する。」

## 6. 高跳ビンゴ②

- ほとんどの子どもが着地をクリアしていた。
- 学習カードの様子から、概ね 60 cm をクリアしている。
- 正面から挑戦する子供が多い。

→ 直感的にやりやすい場を選んでいる？

→ 跳び箱との関連を図りやすいのでは？

- 両足跳びが多い印象  
→ 助走-両足踏み切り-跳ぶ 高くなるほど、両足踏み切りは引っかかっている印象。  
      々々      ダンッ

- 左右から助走

ほとんどがベリーロール的跳び方とハードルの跳び方

- バーに近い足を振り上げるのは 3, 4 人程度
- 片足で踏み切って跳ぶということを意識していない。声掛けもしていない。

佐山先生より

→ 「遊びの中で、ルールとして、片足で踏み切るとするのは入れてもいいのではないか。」

→ 「片足踏み切りという、動きは指導なしで出てくるのかを実践の中で見付けられるとよい。」

(一部、生重の勝手な解釈があります。)

→ 跳ぶ人・見る人・シールを貼る人など役割をある程度決めさせてもよいかも？

- 70 cm までクリアした子供から「80 cm やってみていい？」という言葉があったので、やらせてみました。やはり高さに目が向いているかもしれません。

## 7. 整理運動・振り返り②

児童の振り返り（学習カードより）

主体的な学びの姿勢

「今日跳べたのよりも上を跳んでみたい。」 「最初はできないと思ったけどやったらできた。」

「次はもっと高く跳びたい。」 「難しい方が楽しい。」 「跳べたことがうれしい。」

「ぎりぎり跳べなかったけど楽しかった。」 「いっぱい跳べたのが楽しかった。」

「もっと高く跳びたい。」 「高いのを跳ぶとうれしい。」 「限界に挑戦したい。」

技能

「着地をできるようになりたい。」 「着地を頑張りたい。」 「着地を頑張る。」

「いろんな跳び方をしたい。」

協働的な学び

「みんなで跳べてよかったです。今度はみんなもっと跳びたいです。」

## 「高跳ビンゴ」授業レポート 2時間目

9月21日(木) 5校時 13:40~14:25

### 1. 準備運動

### 2. 8の字跳び

- 昨日より、リズムカルと言うものを意識させてみた。昨日より跳べるチームも増えてきたが、跳べないチームもある。
- 1分半で100回程度跳べるようになった。
- 上手なチームに見本をしてもらった。

### 3. 説明

- めあてを「遊び方を工夫して…」としました。昨日の様子から、「遊び方」という言葉にしても、「高跳びの動きに目が向くのかなあ。」という思いがあったからです。
- 高とビンゴの規則として、「足の裏から着地すること」という言葉を明記しました。

### 4. 高跳ビンゴ①

- 両足跳びをして、正面から跳んでいる子に気を取られてしまいました。「遊びなので、声をかけるのは…。でも…。」みたいな思いでした。
- 「止まらずにやるといいよ。」と言う子がいるチームが、たくさん跳んでいた。
- シールを貼っていて、跳ぶ回数が少なくなる子がいる。  
→意図的に「見る」機会を作ってあげた方がよいかも?  
→続けていくうちに、見合うようにはなっていた。特に指導は入れていない。

### 5. 振り返り①

T:「高跳ビンゴを楽しむために、どんな規則があるといいですか?」

C:「立ち止まらないように跳ぶこと」 C:「片足ジャンプで跳ぶこと。」

C:「またぐように飛ぶこと。」

- 動きに着目していたのだと感じました。意見を基に、「立ち止まらないで跳ぶ。」「片足ジャンプで跳ぶ。」の2つを規則に追加しました。

### 6. 高跳ビンゴ②

- 高さを上げているので、停滞してしまっている子供が結構いました。  
→次時に向けての課題意識を持てると思い、放っておきました。
- 抜き足が引かかる子が多くいました。
- 同じ方向から何回も跳ぶ子が多いです。理由は、クリアできないから繰り返しやっているようでした。「いろんな方向からやっごらん」と声をかけました。
- 跳べない子を待ってしまうチームがありました。(能力差を考慮していないグループです。)

### 7. 振り返り②

T:「規則を変更して楽しかったことはありますか?」

C:「もっとたくさん跳んでみたいと思った。」 C:「ビンゴできてよかった。」

C：「なかなか跳べなくて楽しい。」

T：「跳ぶのが難しくなってきた人？」

C：ほぼ全ての児童が手を挙げる。

T：「高跳びは、どんなことが楽しい運動だと思いますか？」

C：「たくさん跳ぶこと」 C「跳べるようになること」

T：「そうですね。みんなが前回の学習で書いた振り返りの通り、難しかったり、高く跳べたりすると楽しい運動です。」

T：「高く跳ぶにはコツが必要です。次回みんなで高跳ビンゴをしながら確かめていきましょう。」

という振り返りでした。少し、無理やりだったかもしれません。

#### テクニカルアドバイザー（体育補助教員）より

「高跳びでは、踏み切り位置を教え合っていたチーム、踏み切りのタイミングで跳べるようになるのでは！と考えていたチームがありました。「高く跳ぶ」ことを意識していると、跳べない子との差があるチームの活動が難しそうでした。」

#### 児童の学習カードより

##### 知識・技能

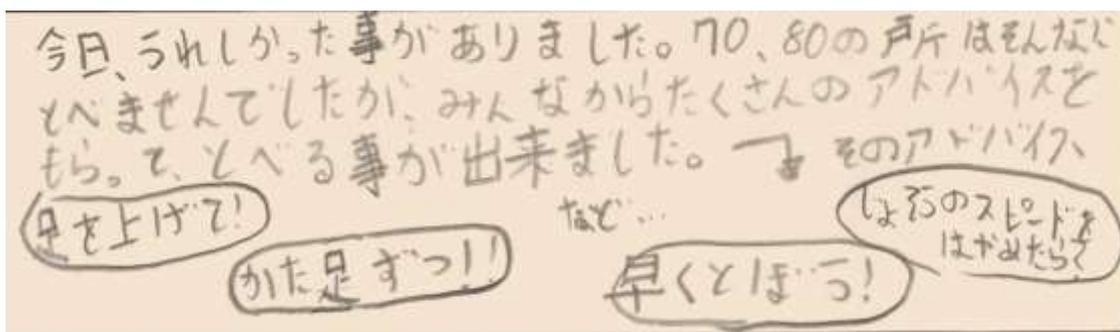
「高く跳ぶには勢いを付けるといい。」 「足を高くして跳ぶといい。」 「思いっきり足を上げる。」 「ゴムよりちょっと後ろで跳ぶ。」 「片足ずつ跳ぶことで跳べる。」 「またぐようにして跳ぶ。」 「助走をつけて、上を見る。」 「左足前、右足後ろで跳んでみたい。」

##### 学びに向かう力

「正面は跳べたけど、左・右は跳べなかったの、左と右を跳びたい。」  
「前までは、できなかったけど、今日はできてよかったです。」  
「高く跳ぶために、もっと練習します。」 「昨日できなかったことができました。」  
「今日は、「少し高すぎたかなあ」と思いました。次頑張ります。」

##### 思考・判断・表現

「両足を踏んで片足ずつ跳んだら跳べたので、アドバイスをした。」 →自分の感覚を伝える。  
「友だちの動きを見て、右・左が跳べた。友だちの動きのまねをするのは大切だ。」



## 「高跳ビンゴ」授業レポート 3時間目

9月22日(金) 3校時 10:45~11:35(5分オーバー)

### 8. 準備運動

### 9. 8の字跳び

- ・スムーズに跳んでいる子が増えました。うまくいっていないところでも、100回/1分半は跳べるようになりました。
- ・子ども同士で、リズムを意識している様子(手をたたく、声を合わせる)が見られました。

### 10. 説明

- ・本時のめあてを説明した後、児童の振り返りをもとに「高く跳ぶ動き」について確認をしました。説明の仕方としては、下の感じです。  
T:「〇〇な動きのコツを書いている人はビンゴが多かったよ。」  
T:「今出た、動きが本当に使えるかどうかを高跳ビンゴ①で確認しようね。」  
→割と意識しようとしている風に見えました。
- ・前時、「跳べない子」を待っていた様子が見られたので、規則に「高さは個人で変えてよい」を付け加えました。

### 11. 高跳ビンゴ①

- ・はさみ動作をしている児童が増えてきた。ベリーロール的な動きと混同している感じがする。
- ・跳べない子の多くは、「跳ぶ位置が違っている。」、「足が上がらない。」「足が曲がっている。」という3点であった。
- ・チーム同士の様子を見てみると、教え合いまでいかないけれども、跳べた子に「ナイス」の声掛けや拍手などを行っている様子が見られました。
- ・教師の声掛けとしては、「どっちの足が引っかかっている?」、「みんな、同じくらい跳んでいる?」、「どうすればうまく跳べる」などです。

### 12. 振り返り①

- T:「見付けたコツや、使えたコツはありますか?」  
C:「横を向いて跳ぶ。コツは使えました。」  
C:「止まらずに跳ぶ。をやってみたら跳べました。」  
C:「通り越すように跳ぶとうまくいきました。」

### 13. 高跳ビンゴ②

- ・挑戦する高さが高くなってきて、引っかかることで、用具が壊れることが数回ありました。
- ・②の時間を長くとった結果、ビンゴの数は増えていました。  
→やはり、意図的に見合う時間を作ってあげる必要性を感じました。

#### 14. 振り返り②

T:「高く跳ぶためのコツには、どんなものがありましたか？」

C:「横を向いてジャンプは、すごく跳びやすくなりました。」

C:「またぐように跳ぶと高く跳べる。」

C:「片足ずつ、足を伸ばして跳ぶと高く跳べる。」

- 高く跳んでいる子どもに見本を見せてもらった。

80cm

○バーに近い足を振り上げている子

○バーから遠い足を振り上げている子

高く跳んでいるということを押さえた。

- 「バーに近い足を振り上げる」という言葉は出てきませんでした。しかし、高く跳んでいる子の動きとしては、「はさみ跳び」に近い動きが出ていたので、4時間目で取り上げたいと思います。

T:「高く跳べるコツは、たくさん見つかりましたね。次の時間は、みんなでビンゴをふやすために、見合ったり、コツを伝え合ったりすることを頑張りましょう。」

児童の学習カードより ※直接子供の意見を見ていただいた方がよいと思うので、画像を載せます

運動へ安全に取り組めた。

きのうよりはできなかつたけどもたのしかたです。あと一時間はこいにかもあうせんたいです。

かた足ずつやったらとべました。(のばす) 90cmはわたしのむねくらいなのでとべないと思っただけいがいととべました。次もコツを見つけていきたいです。

今日、90cmとべました。うれしかったです。  
ほとんどが、左足からあがっていたので  
どうせたら左足からあがるのかかわからなかった  
のでつぎさかしてみたいです。

はじめていきなり70cmとべました！！  
とてもうれしかったです。たぶん足を上げていたからとべた  
と思います。今考えると、ほんとうにそうだなあと思いま  
した。あまりとべない人は、足がさがっていて、とべる人は  
上がっています。先生も、見てみてください。

今日は、「かた足づつ」と足のは「おをあげて  
た」といってたのでよかったです。

この人のを4時間目に取り上げます！！（バーに近い足を振り上げる動きのこと）

わたしは、ま一回80cmが「とべない」ので次の  
時は右からは右をあげて左からは、  
左をあげたいと思っ。ま次は、がんばり



### 15.3時間目を終えて

#### 単元指導計画について

児童の振り返りの記述を参考にすると、「バーに近い足を振り上げると高く跳べる。」ということを感じている様子が多少見て取れました。遊びに近い形でも、高跳ビンゴを通して、「たくさん跳ぶことで、動きに着目する」指導計画を作ることは可能なのではないかと感じます。

「8の字跳び」の効果もあると思います。理由は、リズムや動きなどが自然に出てくるからです。感覚づくりの運動として、最適だと思います。

高跳ビンゴを軸にした指導計画に間違いはないと感じました。河村先生の実践を基に、よりよい形にしていければと思います。

#### 高跳ビンゴについて

児童が、「やってみたい。」「楽しそう」と思える、とてもよい教材だと思います。また、協働的な学びに関しては、「互いに支え合って運動に取り組む」様子が見られました。その中で子どもの「技能」が高まっているように感じました。ビンゴを増やすために、他の子どもと協力する姿勢は見られました。

しかし、「競争」という視点から見ると、私の学級では、生まれていないと考えられます。学習のもっていき方によるのですが、「他グループ」とのことよりも、「自分のグループ」のことに目が向いています。

陸上領域部会 3年「高跳ビンゴ」 事前授業

平成29年9月27日

大田区立梅田小学校 河村俊博

9月21日(水) 第一時

1 めあて確認「高跳びの行い方を知り、安全に取り組もう。」【2分】

2 リズムジャンプ【確認3分 運動4分】

動きを確認し、通して行う。

3 ジャンプウォーミングアップ(8の字跳び)【6分】

・高さ25cm程度の高さで行った。

4 高跳ビンゴ①【準備4分、説明3分 運動5分】

・5人×7グループで行った。

・5人の中で準備の役割分担をした。

・準備と説明に時間がかかってしまった。

「児童の姿」

・両足跳びが多い。一度、やや止まってから跳んでいる児童がいる。

・着地の時に手をついている児童がいる。

・シール貼る友達が誰なのか、ボールのところに立って成功か失敗を見てあげる友達は誰なのか、曖昧なところがあり、たくさん跳ぶことができなかったグループもあった。

5 振り返り①

T「どうやったら安全に跳ぶことができますか。」

C1「跳ぶ順番を守る」C2「跳ぶ前に、声をかけてから跳ぶ」C3「着地の時に、足で着地する」

T「順番を守って、足で着地してやってみよう。」

6 高跳ビンゴ②【3分】

「児童の姿」

・足で着地をして、転ばないように気を付けている児童が多くなった。

・50cmより60cmを跳びたいと、より高い高さに挑戦したいという気持ちが見られた。

7 振り返り②(学習カードの振り返りより)

T「初めての高跳ビンゴ行ってみて、どうでしたか？」

C1「50cmを跳べたから、次は60、70cmも跳べるようにしたい。」

C2「初め跳ぶとき緊張したけど、左右、正面すべて跳ぶことができて嬉しかった。」

C3「ビンゴできて嬉しい。友達と話し合って順番を守り、安全に行うことができました。」

C4「高く跳ぶ時に助走をつけて走ると高く上手く跳べました。」

C5「正面は跳べたから、次は、左右からも跳べるようになりたい。」

C6「一番難しかったのは、正面の70cm。なぜなら、大縄と一緒に正面から入れないから。」

8 整理運動

「役割分担」準備

① 体育カード ボール2本

② ③ マット1枚

④ ⑤ マット1枚

9月25日(月) 第二時

1 めあて確認「跳びやすいこつを見付けよう。」【2分】

2 リズムジャンプ【4分】

3 ジャンプウォーミングアップ(8の字跳び)【6分】

- ・高さを約40cmの高さに変更した。
- ・前回よりゴムに引っかかる児童が増えた。

4 高跳ビンゴ①【運動7分】

「児童の姿」

- ・準備・片付けが協力して行い、素早くできた。
- ・9割の児童が止まらずに跳べている。
- ・前回より高さが増えているので、跳ぶ直前に躊躇する児童が3名程いた。

5 振り返り①

T「どうやったら上手跳ぶことができますか。」

C1「膝を曲げて、足のばねを使って跳ぶ。」 C2「跳ぶ時は、つま先に力を入れて跳ぶ。」

C3「片足跳びの方が高く跳べる。」 C4「勢いよく跳ぶ。」

T「①膝を曲げて跳ぶこと。②つま先に力を入れて片足で跳ぶこと。③止まらず跳ぶこと。の3つのことを意識して跳んでみよう。」

6 高跳ビンゴ②【7分】

「児童の姿」

- ・跳べた時のグループ内での盛り上がりが増している。
- ・抜き足でゴムに引っかかる児童もいる。
- ・両足跳びの児童が減ったが、まだ両足跳びの方が高く跳びやすいと考えている児童も2人いた。
- ・ベリーロールのような跳び方の児童も10人くらいいる。→跳べる子跳べない子それぞれいる。
- ・縦のビンゴ達成にこだわり、左80cmに何度も挑戦していた。右60cmは行わず。

7 振り返り②(学習カードの振り返りより)

T「片足、膝、つま先を意識して跳ぶことはできましたか？跳ぶこつはありましたか？」

C1「片足で跳んだら高く跳べた。」

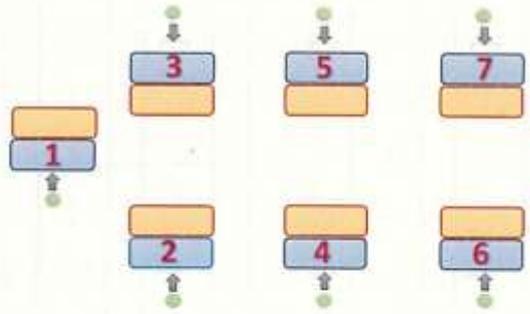
C2「跳ぶ時に片足ずつあげたらやりやすかった。」

C3「正面で跳ぶよりも、右からの方が得意なのが分かった。前回できなかったビンゴができて嬉しい。」

C5「正面で跳ぶより、大縄と一緒にななめからのが入りやすかった。」

C4「こつは、太ももを上げること。手に太ももをつける感じでやるとやりやすいです。」

8 整理運動



### 3 各班での検討

#### 【各班で検討を進めるにあたっての留意点】

##### (1) 授業班

- ・三つの資質・能力を高跳びに特化した具体的な姿にする。(評価規準にもつながる)  
⇒ 3年生と4年生とで分けるもの、2年間通して学んでいくものも明確にする。
- ・3年ならではの4年ならではの主体的・協働的な学習を実践する単元計画。  
⇒ 3年のゴール(=4年のスタート)を明確に。
- ・分けても1年でもできる単元計画の提案。
- ・主体的な学習とは。そうなるための手立てとは? 児童が楽しむことから始めるには?
- ・協働的な学習とは。そうなるための手立てとは? 伝え合う姿はどんな様子?
- ・知る、工夫するを具体的に。なにを、どのように学んでいくのか。
- ・低学年、高学年との系統性の明確化。
- ・中学年の学習における課題解決をどのようにとらえるか。3年と4年で違いはあるか。
- ・C規準の児童がどのように学んでいくのか。

#### <前回の検討内容より>

##### ○単元計画を作成するにあたって

- ・1時間ごとのねらい、振り返り①と振り返り②の内容の検討が必要。
- ・技能を身に付ける必然性がなければ、ポイントに気付かないのではないか。  
→跳べなくなる高さが必要。  
→前時の最高記録-10cmを次時のビンゴの真ん中に設定してはどうか。
- ・「助走から止まらずに片足踏み切り」は、たくさん遊ぶ中で気付けるのではないか。

##### ○単元終了後のゴールイメージ

- ・どのような伝え合いをしていけばよいのか。
- ・バーに近い足を振り上げる、またぎ跳びの動きは3年生で身に付けさせるのかどうか。ハードル跳びを3年生でなくすようにするのか。

#### 【部会での検討内容等】

##### <作成するもの>

##### ◎3年生単元指導計画(生重)

→事前授業をもとにして、高跳ビンゴを中心にして行う。

1時間目「着地」2時間目「動きのコツに気づく」3、4時間目「コツをもとにバーに近い足を振り上げて跳ぶ」

思考・判断・表現…自分の動きのコツを言えるようになる。

##### ◎4年生単元指導計画(吉本)

→学習資料班と連携して行う。場を「より高く跳べるようになる」という観点から再構成する。

夏季合研の単元指導計画に近いイメージ

##### ◎1時間ごとの評価計画(小林)

→前年度の「跳の運動遊び」のイメージで作成

##### <検討すること>

◎3年生の学習の進め方。競争ではなく達成を主眼において考える。「高跳び、幅跳びは競争には向かないのではないか」という意見が多く出ていた。

##### ◎新学習指導要領とのすり合わせ

3年生と4年生で分けるもの、3年生と4年生で貫くものを検討する。

## (2) 学習資料班

- ・ 中学年で身に着けさせるべき技能は？ 3年生と4年生の違いは？ 中学年が運動を楽しむ姿は？
- ・ 走り高跳びと高跳びの違いを明確に。
- ・ 高跳ビンゴの取り組み方を詰める。  
⇒ 高跳びの楽しさを味わわせる。競争の楽しさを味わわせる。記録への挑戦を楽しませる。  
協働する必然性を児童が感じさせる。 3年生と4年生の違いも明確にする。  
何をどのようにして児童が見合うのか
- ・ ジャンプウォーミングアップの内容や取り組み方、何のための時間なのかを明確に。
- ・ できない児童へどのような支援をするのか。
- ・ 学習カードはどんなものを使う？ 学習資料は？ 3年生と4年生でカード等の違いは？

### <前回の検討内容より>

#### ○8の字跳びについて

- ・ 高さは40cm位からで、高くしてもよい。  
(ある程度の高さでないと、手前の足を振り上げる必要性が出てこない。ただし、高くすると跳べない子が出るかもしれない。)

#### ○高跳ビンゴ (★は学習資料班では話し合ったが、授業班とのすり合わせが必要なもの。)

- ・ 事前授業の児童の様子から、子供の「やりたい」を引き出す良い教材であるといえる。
- ★スタート位置を指定し、歩数は言わない？  
(歩数を限定すると、とたんに動きがぎこちなくなる児童が増える。)
- ・ 1時間目……50、60、70cmのカードを全員使う。  
2時間目以降…前時の最高記録を真ん中として、児童自身がカードに記入する。  
例) 1時間目の最高記録70cmの児童 → 60、70、80cmになる。
- ★チーム対抗でビンゴ数を競うのは、2時間目からか。
  - ・ 1つの場に2グループ(4人×2グループ)にして、互いに見合うのがよい。
  - ・ シールは見ているグループに判断し、貼ってもらう。
  - ・ シールの色を4時間すべて変えることで、貼り間違えはなくなる。

#### ○ビンゴカードについて

- ・ 4時間分が見渡せるように、A4二つ折りで内側に4時間分を入れる。
- ・ めあてを記入する欄を作る。
- ・ 振り返りは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を見とれる3つの観点を設け、◎・○・△で自己評価する欄と、自由記述(めあてに対する振り返り等)欄を作る。

#### ○リズム体操について

- ・ 齋藤先生、田中先生の実践や小林先生の意向を考慮して扱う内容を吟味し、次回部会での話し合いを基に伊東が素案を作る予定。

※ 葛城先生には、2つの先行授業と本日の検討内容をもとに、で単元計画を固めた後、実証授業にできるだけ近い形で授業をしていただく。

## (3) 発表班

- ・ 実証授業資料企画      ・ 運動例ファイル企画      ・ 発表原稿作成      ・ パワーポイント作成
- ・ 協議会の運営方法

前回のレジュメに載せた、調査研究部から出た実証授業の留意点をよく読み、提案のポイントやプロットを考えていただければと思います。進めている方向性は間違っていないと思っています。が、どこに重点を置いて、どんな手順で提案していくか、なにを検証していくのかで、参会者に与える影響は変わります。よろしくお願いいたします。

#### 【部会での検討内容等】

##### <作成するもの>

##### ◎学習カード（担当 高木先生、伊賀上先生）

- ・0926 に提案したもの（河村先生が使ったもの）を使ってもらい、変更があれば随時行う。（事前授業する先生が使いにくかったらどんどん完了してください。）

##### ◎8の字跳びのページ（河村先生）

- ・行い方や指導のポイント等を1ページにまとめる。

##### ◎リズムダンス（伊東）

- ・齋藤先生、田中先生、河村先生の実践を参考にしてリズムダンスの内容を精選し、第1案を作る。
- ・BGMはジャクソン5のABC。
- ・取り扱う動きを写真で撮り、2ページ程度にまとめる。
- ・動画を取り、インターネットで見られるようにする。

##### <これから検討するもの>

##### ◎4年生の場の資料（チーフの金井先生を中心にみんなで）

- ・授業班と連携して、4年生の指導に必要な場の検討と資料作成。

##### ◎運動例ファイル（伊東）

- ・作成する？内容は？

#### ★授業班

- ◎次回の部会の様子を見て、原稿依頼を順次始めていく。

PPT作成担当	桜庭先生、伊東先生
原稿作成	葛城先生、伊東先生
協議会運営準備	伊東先生
実証授業指導案・資料取りまとめ	伊東先生
プロット作成	長谷川

※事前授業をしてくださった先生方、ありがとうございました！

### 3 その他

- 実証授業の出欠確認を反省会も含めて行います。近いうちにLINEとメールで連絡します。
- 実証授業の役割分担、必要な道具など、運営の詳細も次回までにまとめます。
- 必要に応じて、班ごとの部会を開くこともあるかもしれません。
- 些細な点は部会ではなく、ボックス上やメール上でやり取りしましょう。部会で確認すべき議題が多い ため、可能な限り質の高い提案を部会にもってこられるように取り組みましょう。
- 業務量に隔たりがあった場合は、助け合いましょう。

### 4 次回以降の予定と宿題の確認

**次回は10月10日（火）第一日暮里小学校 18：30～です。  
次回部会で、実証授業までの日程をすべて決定します。**